

令和7年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

今年度も、生徒は全般的に落ち着いた学校生活を送ることができた。しかし令和8年度の入学希望者は、受け入れ可能人数195名を下回り、近年増加傾向にあった生徒数が久しぶりに減少することとなった。校内では安定した学習環境が整えられている反面、一部生徒による校外での行動には課題があり、学校が積極的に関わり改善していくことが肝要であると考えます。

情報アプリやHPから本校の実態について、保護者、地域への情報量が増したことは評価できる。次年度は学校の広報活動として、近隣小学校へ伊興中の良さのPRや地域行事の運営・お手伝いに、生徒をボランティアとして積極的に参加させてはどうか。

地域に向けた学校行事の公開は、合唱コンクール（前年度）、入学式・卒業式、運動会、作品展と無事行え、運動会・作品展に関する生徒の参加態度や行事の完成度は今年度も素晴らしかったと地域・保護者アンケートで評価された。次年度、さらに発展した伊興中を地域に公開していただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

重点的な取組事項一 学力の定着と主体的に学ぶ生徒の育成

- ・区学力調査の結果では、全学年3教科共に区平均を下回っている。中でも数学は3学年共に区平均を5～6ポイント下回っている。数学科教員を中心として全校体制で基礎学力向上に努めてほしい。また国語・英語も数学ほど区平均との差は大きくないが下回っているため、結果分析後、各教科補強のポイント（区学力調査の英語では領域「読むこと」、国語では領域「書くこと」が低い）を明確にして、日常の授業や放課後補充教室で基礎学力向上に向けて、指導内容の工夫に努めてほしい。
- ・一人一台端末が全員に配備されてから今年で4年目。授業時間、放課後補充教室、自宅学習や欠席時のオンライン学習にも有効活用されている。教員は、それぞれの場面での活用方法を全員が概ね習得している。次年度も生徒の学習意欲が向上するよう、様々なアプリケーションを活用するための研修を進めていただきたい。
- ・朝読書や放課後補充教室は全学年で取り組んでいるが、学習習慣が十分に定着していない生徒にも保護者と協働して家庭学習を定着させるとともに、「わかる」喜びと「できる」自信を生徒に体感させてほしい。

重点的な取組事項二 豊かな心を育む教育活動の充実

- ・生徒質問紙調査の「学校への満足度」の項目では、（1年89.1%、2年85.4%、3年81.5%）であった。学習内容の難易度が上がっていくことも影響していると思われるが、伊興中の不登校出現率は令和8年2月現在、全校生徒の10%を超え、非常に高い。次年度は学校全体として「誰一人取り残されない教育」を推進し、不満足群にいる生徒たち、不登校の生徒たちの人間関係や学習環境等にも焦点を当て、課題解決に向けて組織的に取り組んでいただきたい。
- ・「挨拶や学校のきまりを守ること」については、「とてもあてはまる」・「まああてはまる」と回答した生徒の割合は（1年98.9%、2年94.9%、3年93.8%）であった。約96%の生徒たちが、「学校のきまり」についてきちんと習慣化できていると回答したことは、成果であり、今後も学校・地域が連携して継続していく。

重点的な取組事項三 小・中連携、地域との連携の充実

- ・今年度の小中連携は、年度当初の計画通り実施でき、目標は十分に達成できたと評価できる。地域の子ども達が健全に成長できるよう、小学校3校とさらに連携が充実するよう努力してほしい。
- ・協議会委員・PTA会員・おやじの会会員と連携が深まり、次年度に向けて良好な信頼関係ができつつある。5年先、10年先も見据えて、生徒の健全育成を支援する環境をさらに構築していきたい。

3 その他（まとめ）

今年は、地域と学校の連携に加えて、保護者との連携をさらに強化し、三位一体となって「地域の子ども」をみんなで育てる組織づくりが目標であった。「いこう彰風まつり」や「餅つき大会」ではPTAからも絶大なご協力をいただき、連携強化を推し進めることができた。来年も引き続き、開かれた学校づくり協議会・PTA・おやじの会で学校を支援し、組織が「伊興中学校大応援団」となるような様々な活動を推進していく。